

さくらに木

(題名は校歌より)

さいたま市立宮前小学校

学校教育目標

- ・本気で勉強しよう
- ・心のみがき、体をきたえよう
- ・人のためになろう

在籍児童数672名 学級数25

「食」から学ぶ

校長 高田 信太郎

明日から師走、日の入りも早くなり、街のイルミネーションは、寒さとともに、輝きを増しているように感じます。

先月も充実した活動がたくさんありました。11月7日の研究発表会、16日のさいたま市教育研究会一斉研修会には、他校から多くの先生方に参加いただきました。授業を参観していただき、これまでの研究の成果を発表するとともに、研究を深めることができました。

11月21日には、4年生が校外学習に行ってきました。東秩父の和紙の里で、紙すきを体験したり、川越の蔵のまちをシルバーガイドさんに案内していただいたりしました。子どもたちは、興味をもって体験したり、メモを取ったりするなど、実際に現地に行くことで、多くのことを吸収してきました。2年生は、内野公民館や西部図書館の見学など、実際に足を運ぶことで、いろいろな発見をしてきました。実際に見たり、体験したりする活動が、学びを深めていきます。

「食べる」という活動も学びに結び付きます。宮前小学校では、食育にも力を入れています。今、学校ファームには、見なれない野菜が、青々と育っています。「カリフローレ」と「カリノーケール」というヨーロッパ野菜です。市内では岩槻区を中心にヨーロッパ野菜の栽培が盛んです。今年度、初めて宮前小学校でも植えてみました。

今年の夏は、猛暑で葉物野菜の生育に影響がありましたが、ヨーロッパ野菜も、暑さに弱いため、植える時期の温度が高くと枯れてしまいます。9月の下旬に植えたヨーロッパ野菜も、今年は特に暑かったため、枯れてしまう苗もありました。さらに、虫がつきやすいことも注意をしなければなりません。毎日、栽培委員会の子どもたちが水をやり、職員も虫がつかないように、育ててきたので、どちらの野菜とも、順調に育っています。育てた野菜は、12月の給食でカレーやシチュー、サラダにさせていただきます。

また、5年生の家庭科の時間には、日進コミュニティセンターで毎月実施されている子ども食堂と連携して、調理実習をしました。ちくわを使った調理を通して、食について、いろいろなことを学びました。

このように、野菜の栽培、食に関わる人との交流、さらには、グローバル・スタディの時間に自分たちの考えたメニューのプレゼンテーションを英語で行い、選ばれたメニューを実際に給食に取り入れるなど、教科を越えた食育の実践をしています。「食」を通して、いろいろなことを発見できる子どもたちになってほしいと思います。

